

小平市第四次長期総合計画の策定に係る

市民参加の取組

市民ワーク
シヨップ

小学校
出前授業

高校生
インタビュー

パブリック
コメント

中学生
インタビュー



外国人
インタビュー

骨子案
意見募集等

大学生
インタビュー

市民活動団体
意見交換会

令和3年3月



—目次—

小平市第四次長期総合計画 策定に係る市民参加の取組一覧	1
市民ワークショップ	2
—第1回市民ワークショップの流れとまとめ—	3
—SIMこだいら2030の流れとまとめ—	8
—第2回市民ワークショップの流れとまとめ—	10
—第3回市民ワークショップの流れとまとめ—	14
中学生、高校生、大学生、外国人インタビュー	24
—中学生インタビューの概要—	24
—高校生インタビューの概要—	25
—大学生、外国人インタビューの概要—	26
—インタビュー意見—	27
小学生出前授業	40
市民活動団体意見交換会	43
骨子案に対する意見募集等	50
素案に対する市民意見公募手続（パブリックコメント）	57
最後に	59

小平市第四次長期総合計画 策定に係る市民参加の取組 一覧

平成30年度	●市民アンケート	8/27～9/20 無作為抽出で2千人に送付 ※別途報告書あり
	●市民ワークショップ	3/17 第1回(51人) ※無作為抽出当選者が参加
	●市民モニター	・122人登録 ※市民ワークショップと合わせて募集
	●出前講座（申込を受けて実施）	7/24（市民団体）
	●出前授業(小学校)	1/22_23 五小
令和元年度	●市民ワークショップ	5/25 SIMULATIONこだいら2030（20人） 6/22 第2回（29人） 6/29 第3回（26人） ※無作為抽出当選者が参加
	●市民モニター	・メール13通 ・地域懇談会チラシ送付
	●市民活動団体意見交換会	9/27 SIMULATIONこだいら2030等（20人）
	●出前授業(小学校)	6～7月 五小、十二小、花、上宿小
	●インタビュー	5月 高校生(白梅、小平、錦城、小平南、創価) 7月 中学生(三、四、六、花南) ※二中はアンケート 5～7月 大学生 (白梅、津田塾、職業、一橋、嘉悦、武蔵野美術) 7/8 外国人(小平市国際交流協会)
	●骨子案(意見募集)	1/20～2/19 一般20人、小中学生128人
	●骨子案(地域懇談会)	2/1 東部市民センター 14人 2/2 小川西町公民館 7人 2/4 中央公民館 昼9人、夜6人
	●骨子案(企業等との意見交換)	1/20～2/18 大学4、企業等12
令和2年度	●パブリックコメント手続(素案)	7/27～8/25 ・コロナ禍を鑑み、地域懇談会中止 →中止を補う措置として、 LINEアカウント開設 ユーチューブ動画配信 を実施 ・91人 177件の意見
	●市民モニター	・メール10通送信 ・パブリックコメントのチラシ送付
	●概要版作成プロジェクトチーム	第1回 8/4～第8回2/17 ・市内大学の学生と市の若手職員との合同チームで活動 ※津田塾大学の協力で「英語」版作成 ※小平市国際交流協会の協力で「やさしい日本語」版作成
	●出前講座（申込を受けて実施）	11/27 (NPO法人) 12/11 (市民団体)
	■策定後の取組■	
	●市民モニター向け報告会	2/2 市民モニター向け報告会（7人）
	●市民活動団体意見交換会	3/5 グループでの意見交換等（8人）
	●出前授業(中学校)	2～3月 三、四、六中
	●策定記念シンポジウム	3/20 ルネこだいら中ホール 45人来場 ※後日、動画配信
	その他	●小平市第四次長期総合計画 策定状況ニュースレター

市民ワークショップ

ー目的・経緯等ー

日頃市政に関わる機会の少ない方も含め多様な方にご参加いただくことを目的に、無作為抽出方式により2千名の市民の方に、市民ワークショップのご案内（参加の可否確認）を送付しました。そのうち、85名の方からご参加の意向のお返事をいただき、会場運営の都合から、65名の方を当選として各回のワークショップのご案内を送付しました。

ー市民ワークショップの概要ー

第1回 テーマ「小平市の未来」（平成30年3月17日）		※市民内訳
・小平市の良いところ、改善してほしいところ ・30年後の小平市の将来像 ・将来世代の立場での小平市の将来像		20歳以下 8
		30歳以下 3
		40歳以下 9
		50歳以下 5
※4人から5人で編成したグループ（12グループ）で対話をしながら進めました。各グループにはファシリテーター役として市の職員が1人入り、進行のお手伝いをしました。		60歳以下 12
		70歳以下 8
		70歳超 6
参加者：市民51人、ファシリテーター等職員15人、事務局職員3人、傍聴人6人		合計 51

自治体経営シミュレーションゲーム「SIMこだいら2030」（令和元年5月25日）		※市民内訳
・2025年までの課題への対応（予算の使い方、事業の取捨選択等） ・2030年までの課題への対応（予算の使い方、事業の取捨選択等） ・2030年のまちの姿から、市のキャッチフレーズを考える。		20歳以下 1
		30歳以下 2
		40歳以下 4
		50歳以下 0
※幹部（部長）5人で編成したグループ（4グループ）で対話をしながら進めました。運営協力職員が中心となり、ゲームを進行しました。		60歳以下 6
		70歳以下 4
		70歳超 2
参加者：市民20人、運営協力職員4人、事務局職員3人、傍聴人20人		合計（不明1）19

第2回 テーマ「分野で掘り下げる 小平市の未来！」（令和元年6月22日）		※市民内訳
・子どもや高齢者等、個別の「ひと」に着目 ・社会集団としての「市民」が紡（つむ）ぐ「暮らし」に着目 ・まちなみや施設等、目に見える「まち」に着目		20歳以下 4
		30歳以下 3
		40歳以下 6
		50歳以下 3
※第1回市民ワークショップと同様に進めました。（7グループ編成）		60歳以下 5
		70歳以下 6
		70歳超 2
参加者：市民29人、ファシリテーター等職員9人、事務局職員3人、傍聴人3人		合計 29

第3回 テーマ「小平市の未来」（令和元年6月29日）		※市民内訳
・市民が担う未来の小平市 ・小平市の未来のために大切にすべきこと（全3回のまとめ）		20歳以下 2
		30歳以下 1
		40歳以下 4
		50歳以下 3
※第1回市民ワークショップと同様に進めました。（7グループ編成）		60歳以下 9
		70歳以下 6
		70歳超 1
参加者：市民26人、ファシリテーター等職員8人、事務局職員3人、傍聴人3人		合計 26

ー第1回市民ワークショップの流れとまとめー



①担当から、長期総合計画（基礎知識）について説明。



②ワールドカフェ開始。第1ラウンドは「小平市の良いところ、改善してほしいところ」をテーマに、メンバー同士で対話します。



③市職員1人を残して他の席へ移動します。このタイミングで、飲み物の補充なども。（第2ラウンド終了後も同様。）



④新たなメンバーで第2ラウンド開始。第1ラウンドで出たグループの意見を共有します。その後、「小平市の希望的将来像（概ね30年後）」についてメンバー同士で対話します。



⑤メンバーチェンジ後、第3ラウンド開始。第2ラウンドで出たグループの意見を共有します。その後、「将来世代の立場で小平市の将来像（概ね30年後）」についてメンバー同士で対話します。



⑥最初のテーブルに戻り、第1ラウンドから第3ラウンドの情報共有や意見交換をした後、個人ワーク。「気づいたこと」や「心に残ったこと」を20文字程度にまとめてもらいました。

・一人20文字

No.	この日の感想
1	小平市民の意識の高さを感じました。小平市民でよかった。
2	小平市の未来を皆さん真剣に考えている。小平が活気づく事を願っている。
3	自分では考えつかなかった小平市の魅力や課題が分かりました。
4	楽しい時間を過ごせました。色々な意見、思いを知ることができた事は、これからの小平を考えるととても有意義だったと思います。市税を増やすこと、国際交流できるまちにする事、交通の便を増やすこと、高齢者・子どもたちが安全にすごせるまちにすること どれもとても重要です。
5	気付いたこと…今の課題と将来の課題は全く別の事として考える必要がある。 一番心に残ったこと…人が減れば自然はありきたりになる。自然以外で魅力を作っていかなければいけない。
6	「住みやすい」ということについて再度考えさせられました。（繁華街化？又は 緑、公園、住みやすさ？）
7	「小平知ってる？」と聞いていた私の中に小平愛があることを発見！「小平 良いよネ～」
8	考えは似ている。方向は決まっている気がする。
9	気づいたこと… 意外と小平が好きかもしれない。
10	参加者が等しく市を愛しており、同じ視点で見て、考えているということを感じた。
11	小平は、住み続けたい魅力がたくさんあるまち。
12	小平市が10変わっても 回りのまちは100変わっています。どうします？
13	小平が大好きなみなさんからエネルギーいただきました。明日からもがんばるぞ！
14	皆、小平が好きで、これからも住み続けたいと思っているんだあ、と思いました。私もです。
15	変わって欲しい事、欲しくない事、どちらもあると気付けた。
16	自分が気が付かなかった意見を聞いて良かった。
No.	【緑・自然】
1	緑が多くて住みやすいまち。（都心に近い田舎）
2	小平の自然を守りつつ、活気あるまちにしてほしい。
3	らしさを生かして成長へ。自然と人と再構築。
4	緑が多く過ごしやすい反面、道がせまく災害に弱い面がある。
5	みんなで作ろう小平。自然（緑）との共生。より良いまちづくり。
6	美しい自然の中で、地域別、世代別のアプローチを。
7	緑豊かで文化的なまちを続けて欲しい。
8	小平に住んでいる方々は、小平の自然を愛している方々が多いと感じました。
9	今ある自然を残す事が大切です。子どもと老人にやさしい小平市に。
10	自然を新しい形で残す！子どもたちが誇れる小平市に!!
11	小平市は自然も多く、住みやすい所だと再認識した。30年後も住みやすいまちであってほしい。
12	自然と子どもを残したまま、住みやすいまちに。
13	緑豊かな自然を残しつつ、子育て世代が住みやすいまちに!!
14	自然（玉川上水）を残し、良質な子育て環境をつくれば人口は増える。
No.	【住み良さ等】
1	子どもも大人も自分らしくのびのび暮らせるまちにしたい!!
2	隣接する商業都市との差別化。“住む”まちとして有名に!!
3	30年後も、住み良さに特化したまちづくり。
4	より住みやすいまちにするために住環境（少子高齢化に対応出来る）を整え、魅力あるまちづくり
5	（意外と）施設（図書館、公民館）は充実!!アイデア次第でもっと便利な小平になる。

No.	【まちづくり、にぎわい等】
1	多摩湖線に車掌をつけてほしい。ショッピングモールを作り映画館など娯楽施設を作る。
2	小平は、吉祥寺や立川にない、住みやすい所であるべき。
3	皆様、小平が好きの様子。道路を何とか、の意見が多かった。
4	程よく田舎のまま、便利で長く住めるまちになってほしい。
5	皆さんのお話を聞いて、「緑を残して欲しい」、「車いすでも安心な道路」、「子どもが産れても安心な保育園」。
6	小平市内の医療や保育の充実をはかりつつ、小平市で就職の場を増やして欲しい。
No.	【アピール（PR）等】
1	小平市はアピールが弱い。ふるさと納税で他に流出する可能性あり。ブルーベリー等をアピールする方が良い。無農薬やブルーベリーの商品など。食の安心の為、子ども達の健康の為、無農薬農業と地産地消を推奨してほしい。
2	小平は住んで良いまち。そのために、小平らしい特色をどんどんPRする。
3	ブルーベリー有名にするには、PRもっとがんばれ、小平市。
4	小平の良い所、もっとアピールを！ブルーベリー（ブルーベリーの絵付き）
5	PRはもっと上手に！一大決心で小平市民になったことをほめてあげたい！
No.	【今後の小平市の方向性等】
1	人口、税金など課題はあるが、現状維持が最高！メンバーみんな小平が好きだった。
2	小平市にはたくさんのすばらしい方々が住んでいること、地域を理解することが大切。→そこからアイデアが生まれる。
3	発想の転換で、夢のある理想的な姿を描いてプランづくりをする基本的な対応を期待したい。急激なAIの時代がそこまで来ている時代。
4	「都会に一番近い田舎」をめざし、人と人が手をつなぎ、小平を盛り上げよう！仲間が一杯ふえるといいね♡♡♡
5	人と人とのふれあいの大切さを感じました。（心のバリアフリー）
6	小平市への愛情！好きだからこそ変わってほしい、変わらないでいてほしい。
7	小平だからできるまちづくりを。みんながイメージできることが大事。
8	今あるものを大切にして、それをさらにのばしてほしい。
9	安心して帰れる場所小平を、これからも…
10	住みやすい、だけで終わると人が減る。
11	顔の見えるつき合いと便利さを両立したい。
12	子どもからお年寄りまで見守り合って安全で暮らしやすいまち。
13	小平らしく“すみやすいまち”としての魅力発信。
14	優しい市民に支えられるまち、こだいら。
15	小平は、平和で平らでおだやかだ。
16	潤いと穏やかさを次世代に。
17	「こ」せい 「だ」いじに 「い」きいきと 「ら」いふ (life) がおくれるまち。（ブルーベリーの絵付き）

・一人20文字より抽出した内容

《「全般的事項」（全分野に共通する、根底的な内容）》

<ul style="list-style-type: none"> ・小平愛（自分の中に小平愛を発見等） ・今あるものを大切にして、さらにのぼしてほしい ・現状維持（を望む） ・都会に一番近い田舎 ・発想の転換 夢のある理想像を 	<ul style="list-style-type: none"> ・小平が好き ・好き→変わってほしい、変わらないでほしい ・小平らしさをいかして ・小平だからできる街づくりを ・今の課題と将来の課題は別
--	---

《「ひと」（個別の「ひと」に着目した内容）》

<ul style="list-style-type: none"> ・個性大事にいきいきと生活が送れるまち ・人と人のふれあいが大切（心のバリアフリー） ・子どもと老人にやさしい小平市に ・子育て世代が住みやすい街に ・自然と子ども残して ・市内の医療・保育を充実 ・教育（地域性を活かした教育等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもも大人も自分らしく、のびのび暮らせるまちに ・高齢者・子どもが安全にすごせるまち ・子どもからお年寄りまで見守りある安全なまち ・子どもが生まれても安心な保育園 ・国際交流できるまちにする
---	--

《「くらし」（社会集団としての「市民」や「市民生活」等に着目した内容）》

<ul style="list-style-type: none"> ・小平市民でよかった ・市の未来を皆さん真剣に考えている ・優しい市民に支えられるまち小平 ・小平が活気づいてほしい ・市内で就職の場を増やしてほしい ・子ども達が誇れる小平市に ・潤いと穏やかさを次世代に ・文化的なまちであり続けてほしい ・市税を増やす ・人と人のふれあいが大切（心のバリアフリー） ・小平は 平和で平らでおだやかだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市にはたくさんの素晴らしい方が住んでいる ・仲間が一杯ふえるといいね ・人と人が手をつなぎ小平を盛り上げよう ・もっとアピール（PR）を（ブルーベリー等特色） ・「住む」街として有名に（住みやすさに特化） ・急激なAIの時代が近づいている ・安心して帰れる場所 小平をこれからも ・顔の見えるつき合いと便利さの両立 ・地域を理解することが大切→そこからアイデア
--	---

《「まち」（まちなみや施設等、物理的に見える「まち」に着目した内容）》

<ul style="list-style-type: none"> ・30年後も住みやすいまちであってほしい ・住みやすいだけで終わると人が減る ・住みやすいとは何か （繁華街化？緑・公園等？） ・自然を新しい形で残す ・活気あるまちにしてほしい ・ショッピングモールや映画館などがあると良い ・アイデア次第でもっと便利な小平になる ・少子高齢化に対応できる住環境を整える ・車いすでも安心な道路を ・多摩湖線に車掌をつけてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・「住む」街として有名に（住みやすさに特化） ・自然を守ってほしい。自然（緑）と共生 ・自然と子ども残して ・自然以外の魅力も必要 ・子ども達が誇れる小平市に ・隣接する商業都市との差別化 ・施設（図書館・公民館）は充実している ・周りのまちも変化していく ・道がせまい ・交通の便を増す（交通利便性向上）
--	--

—SIMULATIONこだいら2030の流れとまとめ—



①ゲームに先立ち、小林市長から「人口減少や高齢化などの変化は、地域の課題解決に取り組むまちづくりにつなげていくための好機でもあります。本日の市政運営の模擬体験を楽しんでください。」と挨拶がありました。



②運営協力職員による財政講座のあと、SIMこだいら2030の進め方について説明。各グループでそれぞれ担当する部長役が決まり、辞令交付の後、ゲームがスタート。



③第1ラウンドでは2025年までの課題が示され、限られた予算をどう使うのか、部長同士の対話により進められます。苦労しつつ政策選択の判断をして予算案が決定。



④予算案が決定したら、「議会」が待っています。他グループの議員役から容赦なく質問が浴びせられ、「部長」は政策選択の説明をします。第2ラウンドでは、2030年までの課題が示され、第1ラウンドと同様に進められます。



⑤第3ラウンドでは、2030年までの課題への対応により選択した事業やこれまでの対話から、自分たちのまちのキャッチフレーズを設定します。その後、それぞれが他のまちの予算案（政策選択結果）の視察を行います。



⑥最後に、担当からまとめがあり、全体を振り返りました。
「良いまちができましたか…？」

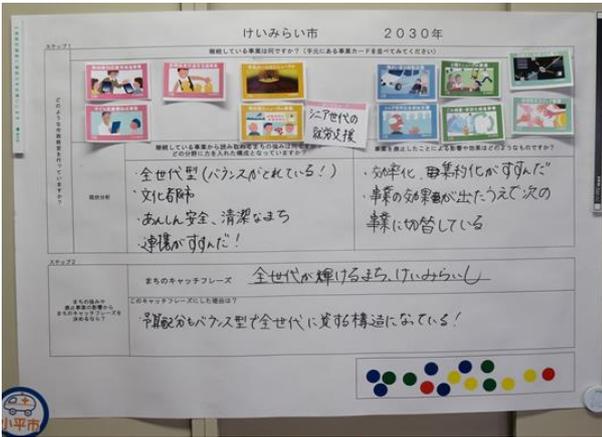
・第3ラウンド終了後の各グループの模造紙口



幅広い世代が住みやすい街
(バランスが良い)



子育て、住みやすい環境の 安心して住める街
(若い世代をまちに呼び込み、税収も安定)



全世代が輝けるまち、けいみらい市
(予算配分もバランス型で全世代に資する構造に
なっている!)



笑いごえが響くまち“けいみらい市”
(福祉と自然の共生で、どの世代(子どもからシニア)の人たちも安心してくらすためのまちをめざす)

・参加者アンケートより

<ul style="list-style-type: none"> ・どのグループの結果も、子育てや暮らしやすさに重点をおいていた ・何かやるには何かやめないといけない ・多種多様の意見をまとめながら、総花的にならない計画を作ることの大切さ ・環境が変化する中での予算の配分の難しさをリアルに体験できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた財源のなかでのやりくり、とても大変でしたが、“これだけは譲れない”を大事にしていくとおのずと必要なものが残ったなあと思います ・事業を廃止するというのがとても難しい(他者が納得いく説明は難しい) ・予算の使い方がいかに難しいことがわかった。無駄のない税金にしてほしい
--	--

ー第2回市民ワークショップの流れとまとめー



①担当から、小平市の基礎的内容（歴史、地域資源等）やこれまでの市民ワークショップについて情報提供。



②ワールドカフェ開始。第1ラウンドでは、子どもや高齢者等、個別の「ひと」に着目して、メンバー同士で対話します。



③市職員1人を残して他の席へ移動します。このタイミングで飲み物の補充なども（第2ラウンド終了後も同様。）



④新たなメンバーで第2ラウンド開始。第1ラウンドで出たグループの意見を共有します。その後、社会集団としての「市民」が紡(つむ)ぐ「暮らし」に着目して、メンバー同士で対話します。



⑤メンバーチェンジ後、第3ラウンド開始。第2ラウンドで出たグループの意見を共有します。その後、まちなみや施設等、目に見える「まち」に着目してメンバー同士で対話します。



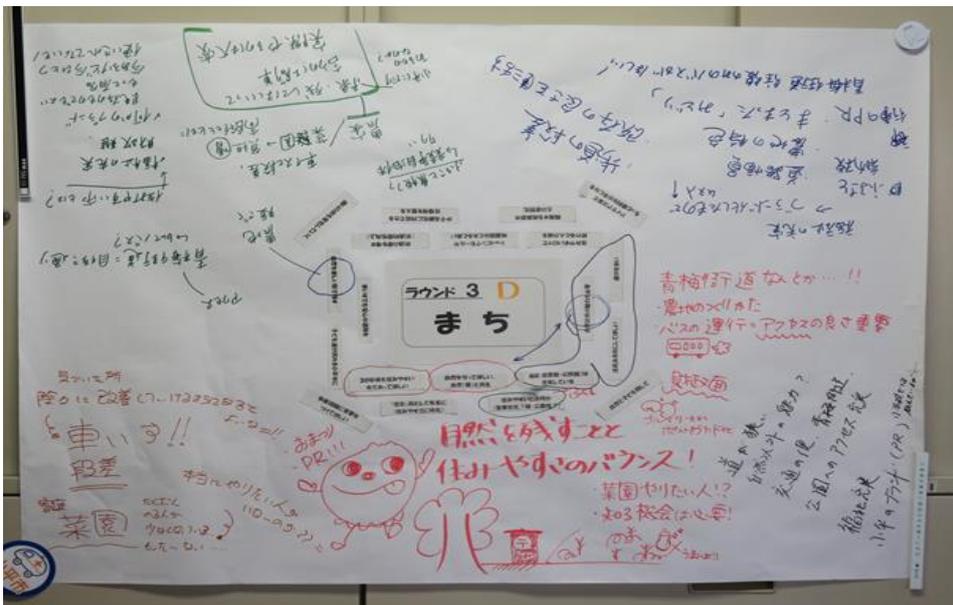
⑥最初のテーブルに戻り、第1ラウンドから第3ラウンドの情報共有や意見交換をした後、個人ワーク。「気づいたこと」や「心に残ったこと」を20文字程度にまとめてもらいました。



第1ラウンド模造紙例



第2ラウンド模造紙例



第3ラウンド模造紙例

・1人20文字

No.	【ひと】
1	小平市は「和」が大事だから「輪」も大事。
2	つながる集まる助け合える地域へ。
3	新しく「たてのつながり」を増やし もっと住みやすいまちに。(ひと・くらし)
No.	【くらし】
1	市民個々が文化を発信 人生を楽しめる程よい田舎。
2	住みやすさ +a の魅力で 人にやすらぎと勇気を与えるまちに!!
3	助け合いの心がある市民性 帰るとホッとするまち 小平。
No.	【まち】
1	小平市 みんなで守ろう プチ田舎。
2	世代を超えてつながれるしくみをつくり ほっとできるまちに。
3	小平らしく 小平ペースで…
4	アイデアを出し合い 住みたい小平にしよう!
5	ふるさと納税 増やそう財源 小平特産品 in BOX。
6	安全で教育施設が充実しているまち。
7	住民の暮らしやすさ(緑、文化、ほっとするetc…)は大前提として、市外の人にも魅力的に見えるまちづくりを。
8	子世代に残すは自然か商業施設か?!現状 インフラ整備を今すぐに!
9	小平は、映画 < 超高層マンション < 自然
No.	【全体(その他)】
1	具体的にはこれといったことはないが、アイデア次第でというところで、皆さん良いアイデアがあるなと思った。
2	住み良いまち。プラスαで明るい未来がやってくる。
3	地域の安全をはかりつつ、就職の場を増やしてほしい。
4	子育てしながら 住んで働けるまち 小平市。
5	子育て世代が住みやすいまちとして 文化的なたたずまいを残しながら インフラ整備を進めてほしい。(例えば、車いすでも安心な道路など)
6	子どもの育成に良いまちづくりがバランス良いまちをつくる。
7	やっていることをPRできていないことはもったいない!!
8	ブルーベリーのみ「小平」を世界へ!小平ブランドの創設を!!
9	今あるものを最大限PRして 得たお金で緑を守る!!! (ブルーベリー、ポスト、菜園…)
10	自然を残し、市民同士の交流が多いまちになってほしい。
11	人と人とのネットワークが広がる 文化的なまち“小平” そのためにも“資金の充実”が大事。
12	個々のふれ合いを大切に 広く交流できるまち。
13	ふれ合いを求めているのに、できない。残念!
14	助け合いでつながる 小平らしさ みどりの和。
15	「全ての人の居場所」になるまちを目指す 財政基盤が必要。
16	小平の交流の場を充実発展させ情報発信。
17	居住地「安全・安心のまち」地域の交流イベントなどを通じた隣近所とのもっと交流を!防災訓練もありか。
18	自然と文化を守り、育て 人と人とのふれあいを大切にした 都市再開発(活力)の推進。
19	市民全員が地域・まちに参加し、係わりのもてるまちづくりにより 活気のあるまちになってほしい。
20	“持続可能な、人とつながりある暮らしやすいまち”づくり。

・一人20文字より抽出した内容

<ul style="list-style-type: none"> ・つながり、ふれ合い、交流 ・市民が地域や市に参加し係わりをもてる ・安全で安心して暮らせる ・文化的なたたずまい ・財源確保が大切 ・働く場 ・インフラ整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホッとする、暮らしやすい ・自然・みどりを守り、大切に ・小平（の強み、今ある良さ）をPRする ・子育て、教育の充実 ・活気（都市再開発も） ・アイデアを出し合う
--	---

・参加者アンケートより

《「ひと」》

<ul style="list-style-type: none"> ・人と人のつながり、結びつき ・市民参加型のイベント、きっかけの場 ・安全さや安心感がほしい ・子育て世代が住みやすい街 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の充実 ・多くの大学が存在する学園のまち ・老若男女、弱い立場の人にもやさしい ・日本人も外国人も暮らしやすいまち
---	---

《「くらし」》

<ul style="list-style-type: none"> ・交流（自発的）、タテのつながり ・暮らしやすさは満たされつつある ・緑に囲まれた、帰るとホッとするまち ・安全、安心なくらしを 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の狭さや暗さ改善して安全なくらし ・働ける場の確保を ・市の良さや特色をもっとPR ・図書館等内容充実で文化のまちを今後も
---	---

《「まち」》

<ul style="list-style-type: none"> ・プチ田舎、これが良い ・自然や緑を大切に ・ショッピングモールや再開発も必要では ・IT、AIと小平らしさの共存 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外へのPRで財源確保も ・道路やインフラの整備を ・交通（市内移動）が意外と不便 ・プラスαのアイデアで人を呼び込む
--	---

《「その他」》

<ul style="list-style-type: none"> ・未来志向のプチ田舎を ・子どもから老人まで笑顔で暮らせるまち ・市民同士のコミュニケーション活発に ・緑、住みやすさ、「のんびり」の良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外にも小平の良さをPR ・財源確保、選択と集中 ・テーマを超えて絡み合う話し合いだった ・プラスαのアイデアと行政の後押し
--	--

ー第3回市民ワークショップの流れとまとめー



①担当から、これまでの市民ワークショップの振り返りと小平市の参加・協働について情報提供。



②第1ラウンド、第2ラウンドでは、メンバーチェンジを行いつつ、これまでの市民ワークショップから出されたキーワードを参考に、「市民が担う未来の小平市」をテーマに、メンバー同士で対話します。



③第3ラウンドでは最初の席に戻り、「小平市の未来のために大切にすべきこと」について個人ワーク及びグループワークにより付箋に書き出していきます。



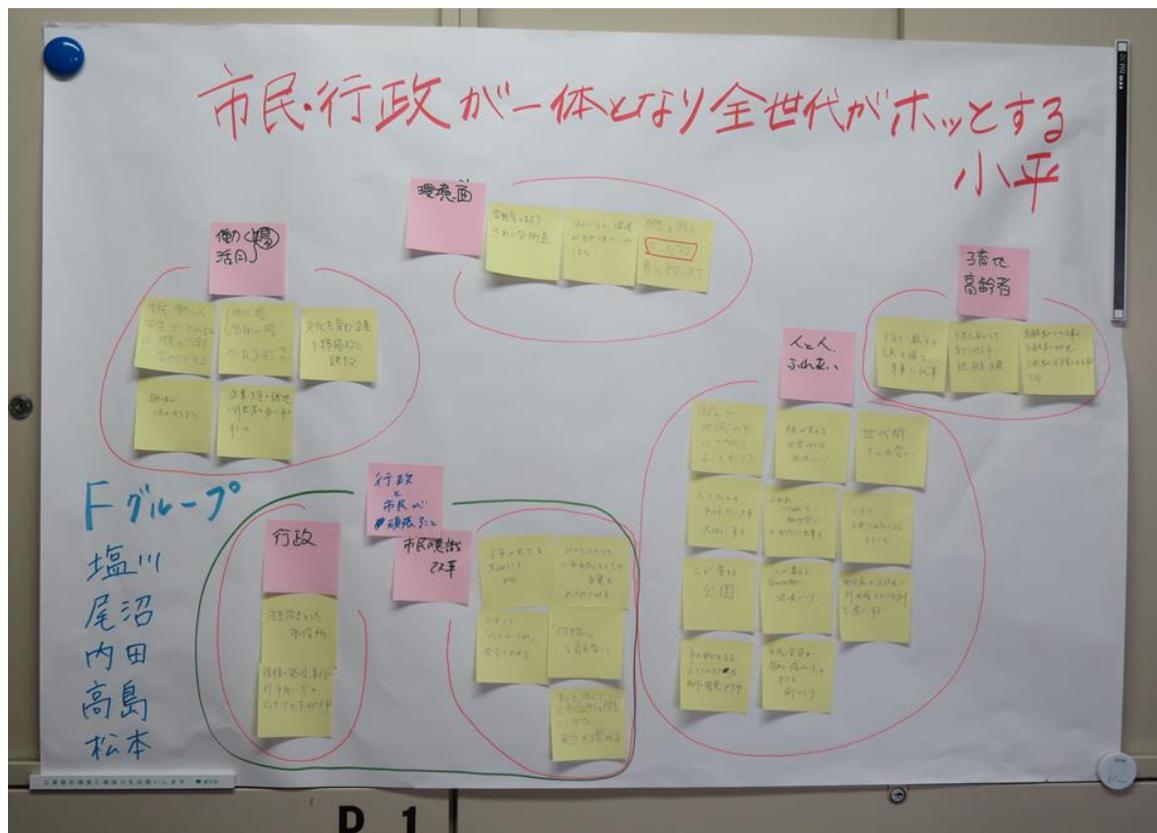
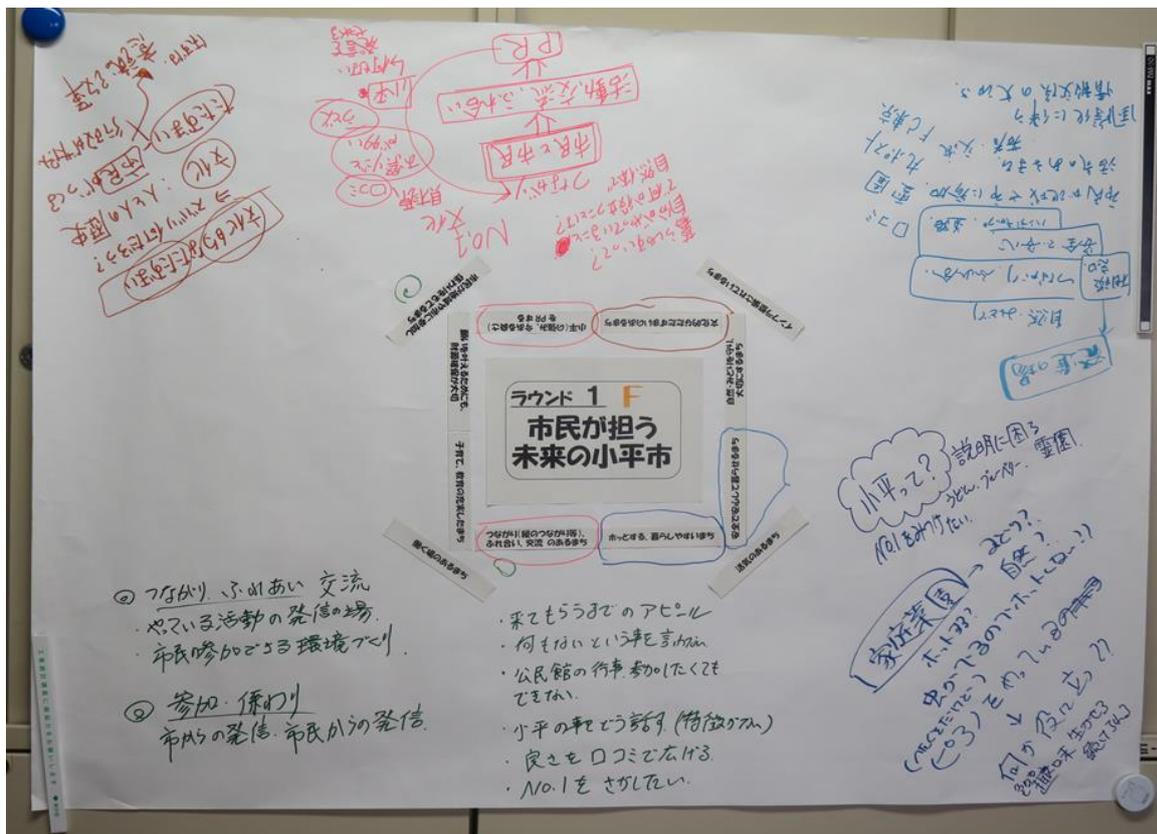
④模造紙に、グループでの意見やアイデアをグルーピングしながら、大切にすべきことを見える化し、小平市の未来を表すキャッチフレーズを書き入れます。各グループごとに発表。



⑤グループ発表を終え、小林市長から市民ワークショップ参加者の皆さんに、「市民が自ら考えた内容であることが大切。まちづくりに主体的に関わっていただきたい。」との激励と感謝の気持ちが述べられました。



⑥最後に全員で記念撮影。



市民・行政が一体となり全世代がホッとできる小平

・各グループ摸造紙（付箋）出現頻度の高い単語一覧

単語	頻度	単語	頻度	単語	頻度
小平	27	交流	7	農地	4
街（町）	25	ふれあい	6	道路	4
PR	20	企業	6	支援	3
人	17	誘致	6	趣味	3
自然	17	高齢者	6	便利	3
充実	15	障がい者	5	施設	3
つながり（る）	15	自治会	5	維持	3
市民	15	活性化	5	起業	3
子ども	14	楽しめる（楽しみ）	5	誇れる	3
働く（働ける等）	14	財源	5	暮らせる（暮らす）	3
文化	13	協力	4	イベント	3
緑	12	住環境	4	プチ田舎	3
世代	11	災害	4	歩道	3
地域	11	活用	4	整備	3
環境	11	参加	4	住みやすい（やすさ）	3
大学	10	生活	4	コミュニケーション	3
安心	10	図書館	4	育てる	3
街（町）づくり	9	残す（残し）	4	インフラ	3
安全	9	優しい（優しく）	4	行政	3
子育て	9	若者	4	集まる	3
発信	7	ホッとする	4	活躍	3
教育	7	守る	4	愛	3

- ・参加者アンケートより
- 《市民が担う未来の小平市》

<ul style="list-style-type: none"> ・大学と協力して市を盛り上げていく ・就職の場 ・市民が市政に関心を持ち、市政参加をする ・全4回で最も難しいテーマ！ 「主体になる」ということの難しさ ・自治会を活発に ・子育てももちろん、高齢者がもっと働ける環境を ・良いものを残しつつ、新たな物を取り入れより良いまちに ・若者が希望を持てるようなまちになってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の和 ・情報のターミナル的な場を広めるには、何が 필요한のか自分ができることがあるのか考えていく ・多世代がつながる場づくりとしくみづくりが多く の参加者の共通項 ・都市整備と自然を守る事は相反しない事も多くあると思う ・“ふれあい、人とのつながりを充実していくPRが必要である。”がとても難しい ・思わぬ切り口を聞くことができ、市政の難しさを痛感
--	---

《小平市の未来のために大切にすべきこと》

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代、多様な人とつながる寛容なまち ・緑や小平愛など、大切にしたいものが明確になった！ ・緑豊かを残しつつ、子育てしやすい環境を大事にしたい。緑と子どもを育て守りたい ・官民一体となった取組の活性化 ・PR力の向上（インスタ・Twitter・Face book等） ・人と人のつながりを大切に ・将来を担うには、何かアピールできるものが必要 ・未来像の全体的な視点を共有できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・小平の未来を考えた時に、自らが当事者になったことを想定しながら、言葉を発せなければならない ・市民の主体性が今後のまちづくりに問われている ・緑・子育て・交流はソフトの充実でカバーできる部分もありそう ・様々な人々との意見の相互確認が大切 ・一人ひとりの意見がバラバラでも、何人かまとまると確かなものになっていく ・心おきなく“対話”ができる仲間がネットワークを作り、地域を支える未来が見える ・すてたものではない小平
---	--

市民ワークショップ 出現頻度の高い単語 各回のベスト5

第1回 (3/17)		第2回 (6/22)		第3回 (6/29) ①		第3回 (6/30) ②	
小平	34	小平	11	小平	6	小平	27
自然	12	まち (街、町)	10	つながり	3	まち (街、町)	25
住みよい	10	つながり	5	緑	2	PR	20
まち (街、町)	8	地域	4	優しさ	2	人	17
子ども	8	住みよい	4	市民	2	自然	17
		自然	4	人	2	充実	15
		交流	4			つながり	15
		人	4			市民	15

※第1回、第2回は、1人20文字のまとめより、第3回は、各グループの①キャッチフレーズと②模造紙（付箋）より抽出しました。